

## 卒業生代表挨拶

本日は私達卒業生のために、「卒業証書・学位記授与式」の場を設けていただき、卒業生一同、心より感謝申し上げます。

先程は、宮崎学習センター所長 石川 千佳子様より心温まるお言葉をいただきました。本当にありがとうございます。また、ご来賓の皆様、ご多用の中にご参列いただき、優しいねぎらいの言葉をいただきました。心より感謝申し上げます。そして、宮崎学習センターの職員の皆様の、優しく温かく、手厚いサポートに、改めて感謝申し上げます。

私事ですが、本日、還暦の誕生日に卒業式を迎えられた偶然を、感慨深く思います。放送大学を始めたきっかけは、今から約 40 年前のことです。短大を卒業後、教員採用試験に落ち気落ちしていた私に、父が「せっかく合格したにもかかわらず、困窮していたから大学進学をあきらめただろう。申し訳なく思っている。これからは自分の力で学んでいくように」と入学金と基礎科目の 3 単位を支払った書類を渡してくれたことでした。

それから、臨時採用として小学校で働きながら、また採用試験に合格後も、その時々に必要な内容を学ぶため、そして資格を得るために、単位を取り続けていきました。40代半ばになると役割が増え、土日にも研究・研修をするようになり、さらに親の介護が重なり、すっかり「放送大学」から遠のいていました。

卒業しようと思ったきっかけは、2 年前です。脳梗塞で半身不随、言語障害になってしまった父が、一生懸命に回復しようとリハビリを頑張る姿に、私も何か父を喜ばせることをしたいと願い、放送大学の卒業証書を見せることを思いつきました。卒業までの残り単位が少なかったこともあり、無事に単位を取得し、今回卒業することができました。

残念ながら、昨年 7 月に父は他界し、間に合いませんでした。が、卒業までやり遂げたこと、父の出身地である日向市で卒業式を迎えることを、きっと喜んでくれていると思います。そして、幼少の頃、貧しさのなかにあっても工夫して本好きに育ててくれた母に、感謝します。

振り返ると、放送大学の学びは多様性に富み、その時代に応じた様々な科目を選択できます。全国どこでも受けることができる面接授業では国内の第一人者の、個性的で魅力的な先生方から、教授いただけます。その面接授業で出会う仲間もまた、個性的で素晴らしく、多様な人生を歩んでいる方々です。試験に向けて教え合ったり助け合ったり、一期一会の老若男女の方々と協力して学ぶことができるのも、放送大学の『面接授業』ならではのです。

本日、入学される学生の方も、どうぞ安心してください。わからないこと、不安なことを何度でも優しく丁寧に教えてくださる宮崎学習センターの方々があります。時に、仲間と学び合うことができます。学ぶことは、本当に楽しいことです。時代のフェイズが変化しているこの時、本日を節目のマイルストーンとして、これからも生涯「学び」を続けていきたいと思います。

最後になりますが、放送大学のますますのご発展と学習センターの皆様のご健康とご多幸、卒業される学生の皆様と、本日入学を迎える学生の皆様のご活躍を、ここから祈念申し上げ、卒業生を代表してのあいさついたします。

令和 7 年 9 月 28 日

卒業生代表  
大山 正子